

2017年3月 一般質問 壇上で

連合市民クラブ 津田 加代子

こんにちは
連合市民クラブの 津田加代子です。一問一答で行います。

2015年12月議会で行ないました一般質問【子どもの貧困に関して、市としての取り組みについて】の一部分を、再度取り上げて、大きく3つの質問で『学習支援の取り組みについて』の提案としたいと思っています。

2015年12月当時、議場でパネルを、説明に活用しました。2009年実施の文科省調査『全国学力・学習調査の結果を活用した、学力の影響を与える要因分析に関する調査結果』で、お茶ノ水女子大学 耳塚先生らによる研究結果を示しました。ご記憶にあるでしょうか？

社会経済的背景が恵まれていない家庭環境の子どもが、家庭学習に3時間かけて日々続けても、社会経済的背景のいいとされる子らに、追いつかないという結果でした。

以前からも言われてきたことではありましたが、こうまで、グラフ化され、視覚にうったえられて示されると、貧困の連鎖を起こさない懸命な施策を早急に作り出していくことが必要であると受け止め、質問としました。

1. 本市の子どものおかれている環境、その実態把握について

2015年12月議会での一般質問で、『市としての実態把握とその分析について』では、『6人に一人の割合で、子どもの貧困があるという実態と、シングルマザーの子どもでは、2人に1人の割合で、貧困となっている』といった国のデータと同様な方法での指標は示すことはできないとされ、津田の方から、それでは、生活保護率・就学援助率、要援護率、一人親家庭率、高校進学率とその中退率が、本市ではどうなっているのかと質しました。その際、県・国との比較では、川西市の方がいい状態であると数値が示し、しかしこれでは個々の生活実態は見えてこず、自治体としての施策に返す方向性が確実には見えてこない、見えずついてきていることを指摘してきました。

この3月議会の『平成29年度 市長施政方針』の中で、

《子どもの貧困対策を検討するために、子どもの貧困に関する実態調査を実施いたします。加えて、生活保護受給世帯の実態を把握し、自立した生活を確保するための支援を行ってまいります。》とありました。

明らかに、前進していこうという取り組みが、この29年度に実施されるようになってきたことは、担当課のご努力とオール川西の挑戦であると感じ、対策に結びつくデータを求めて、調査を掛けてほしいと願い、質問します。

1) 調査の具体的な方法について

- ・だれがアンケートの項目などの作成を行うのか？
- ・何人に実施していくのか？
- ・どういった方法ですか？
- ・実施時期については？
- ・生活保護受給世帯以外の生活困窮者についてはどうするのか？

2) 本市役所内部の担当部署について

- ・そこからの支援の具体的な策はどう考えられていくのか？

2. 本市の子どもの学力向上への更なる取り組みについて

国の悉皆、学力調査の結果をふまえて、また当時は、川西市単独の学力習熟度調査も実施してきていましたが、その結果を踏まえて、市独自の、他の自治体に先駆けての取り組み「きんたくん学びの道場」が提案されました。現在では、全小学校にその事業は広がっています。しかし7つの中学校においては、部活の時間と重なってしまうということから、予算化されて行っているその事業は、今はありません。そういう中、7つの中学校で、以前にもまして、補充学習の取り組みが、学級担任はもとより、学年教員団上げての動きとして、学校として取り組む動きをとってこられています。「きんたくん学びの道場」の教育委員会からの発想とその提案は、生きた形で変化し、川西の子どもの学力向上に役立っていると感じていますし、数学や算数での、クラスを分けて、ハーフサイズの取り組みも時間割の中に組み入れられ、1クラスの人数をその授業のときだけ、半分にするだけで、一人ひとりの実態が良く見え、その上での補充も実施されていると聞きます。

現場の先生方のご努力と児童・生徒を前にして、日々感じておられることの取り組みの継続実施に対し、敬意を表します。そのことから文科省の学力調査においては、とりわけ中学校の数学・国語の力の向上の様子が、視覚に訴えかけて、平成28年度版にもまとめられてありました。小学校での取り組みも、

中学校にきて実りをあげているものと判断しています。

しかし、しかしです、これは、あくまでも平均点で示されたもので、個々についての考察ではありません。そこで、**一步進めた学力保障の取り組みを、期待しての質問**となります。

1) 文科省の全国学力・学習状況調査結果の**度数分布**はどうなっていたのでしょうか？

フタコブラクダ状態のものではないのでしょうか？示された平均点は、その結果から出されたものではないのでしょうか？近年の学力テストの点数が、他自治体の資料からも、正規分布ではなく、フタコブラクダの分布であるといわれていますが、川西市においてはいかがでしょうか？

2) 個別学習の取り組みについて

フタコブラクダ状態においては、公的な支援としては、高位の子どもに対して、より向上するような取り組みの期待があるし、低位の子どもに対しては、直接支援が考えられるだろうということで、改めて取り組みの必要性があるかと思われませんが。

3) 放課後の子どもの居場所等を学習支援の場として生み出すことについて

夕方、個別の時間があるけれど、一人ぼっちの夕食時間、わからない学習課題があるのに、それを解決に結びつけることのできない環境下にある子どもたちに対し、学校現場は今も、精一杯の取り組みをされ、形にもあらわれてきている実際を思うとき、地域人材の活用や学生ボランティアの支援を得て、地域で、夜の学習支援を行っている地域があります。川西におけるそんな地域の取り組みがあれば教えてください。

また学校（セオリア等）に**来ることができてはいない児童・生徒**についてつまり、この子どもたちへの学力保障を、どのように考え、支援策を講じていかれようとしているのか？

4) 人とかかわりがもてていない（少ない）児童・生徒の**学力保障**について

- ①不登校生の過去3年間での、小学校・中学校での数について
- ②セオリアに通っている児童・生徒数について

3. 生活困難者自立支援制度の「教育支援事業」の具体的な取り組み を早急に進めていくことについて

はじめの指摘にも述べましたように、『貧困の連鎖を断ち切るため』に、国の補助もあるこの制度の「教育支援事業」の持つ意義は大変大きいと感じます。

- ・家庭環境が、子らの学力に繋がっている。
- ・幼少期からのこの環境の差は、すぐには埋まらない。
- ・いくら頑張ってもだめなのか・・・？ そんな中、教育支援をしていくことの意味が大きい。

- 1) 現在の取り組みについて
- 2) 今後考えておられる取り組みについて